

# ・サムライ達の「北方領土交渉」

2021年9月11日  
横浜歴史研究会  
植木 静山

- ・嘉永6年(1853)
  - 6/3、米国ペリー提督 黒船4隻を率いて浦賀に来航して、日本の開国と交易を求める。  
 フィルモア大統領の親書を久里浜にて受領、来春4、5月頃に回答を聞きに来る。  
 当時、灯油、潤滑油など油は、捕鯨船の取る鯨油に頼り、日本周辺には2・300隻。
  - 6/22、12代将軍、徳川家慶(61)逝去す。幕府の老中首座の阿部伊勢守正弘(35)。
  - 7/18、帝政ロシアのプチャーチン提督、黒船4隻を率いて、長崎に来航し、日本の開国、  
交易そしてトラブルの絶えぬ北方海域での日露の国境を画定したいと提案する。
  - 『・ロシアは、過去二度、使節を送ってきていた。(1)寛政4年(1792)アダム・ラクスマン、伊勢の漂流民大黒屋光太夫らを連れて、蝦夷地の根室にやって来た。(2)文化元年(1804)レザーノフが仙台の漂流民4人を連れて、長崎にやって来た。  
 この間、間宮林蔵の北蝦夷地探検。また、高田屋嘉兵衛がロシアに捕縛される。』
  - 10/22、13代将軍に徳川家定(30)がなる。篤姫のちの天璋院。
  - 10/23、プチャーチン、全艦隊を率いて長崎を去る。再び戻るが、今度は江戸に行く!
  - 12/21、プチャーチン、長崎に再来航する。長崎奉行所にて日露交渉が始まる。  
ロ応接掛、筒井肥前守政憲(76)、川路左衛門尉聖謨(52)、6回行い正月に去る。
- ・安政元年(1854)
  - 1/16、ペリー提督、黒船7隻を率いて、神奈川沖に現われる。ア応接掛、林大学頭復斎、  
井戸対馬守覚弘らが交渉に当たる。
  - 3/3、日米和親条約(神奈川条約)13条が締結させる。「日米は永世不朽の親睦を結び、開国  
して、下田と箱館が開港し、欠乏品は日本の役人の周旋で調達、漂流民の救助、法を守る事等が定められる。下田に領事を置く。5/25、下田から日本を去る。
  - 7/15、英国のサー・スターリング提督が長崎に来航。大型帆船ウインチェスター、蒸気船バラクダーとスティクス、最新式スクリュー船エンカンターの4隻。日本語通訳オトー、  
・中東でロシアの南下政策の結果、「クリミア戦争」が起こり、ロシアとトルコ。劣勢なトルコに英仏が味方して、交戦中であつた。長崎奉行水野筑後守(39)、御用取締の永井尚志(38)に協力を求める。サースターリング提督は、ロシアの南下政策について説明する。いわく……、  
長崎奉行は、大至急で江戸に伺いをたてた。そして、8/18、阿部正弘から回答が届き……、回答を伝えべく、長崎奉行所にイギリス側を招く……。
  - 8/27、日英和親条約、7条が結ばれる。イギリス東インド艦隊は、日本を去り北に向かう。  
プチャーチン提督座乗の砲艦ディアナー一隻で、10月30日下田に到着。  
この間、箱館にて交渉の再開を告げる、そして大阪を訪れる。  
ディアナは、全長53m、幅14m、吃水12m、両側二段に32ポンド砲52門を備えた三本マストの帆船。乗組員400人、
  - 11/3、下田、福泉寺にて第1回の日露交渉を行なう。
  - 11/4、この日、下田は朝から地震、大津波に襲われて壊滅的な被害を受ける。大型廻船13  
艘、漁船、幕府の御用船など多数が係留されていたが、破壊され沈没した。下田の

全戸数 856 のうち無事だったのは 18 戸、紀伊半島を震源とする推定マグニチュード

8・4 の地震と津波の被害は太平洋沿岸一帯に及んだが、幸いに江戸には及ばなかった。ロシア船ディアナの被害も甚大で大修理が必要だった。(安政の東海大地震)

11/13、下田の隣りの柿崎村の玉泉寺で交渉再開、「ロシア船修理の総監督と取締役」の江川太郎左衛門が、ジョン・マン中浜万次郎を連れてやって来る。

11/26、ディアナが、伊豆の西海岸戸田へ修理のため向かう。が、駿州宮嶋村三軒屋の沖合に漂着してしまう。翌日、約百艘の小舟が集められ曳航して、戸田に向かうが、富士山下の駿河湾の中央部・一本松原沖で沈没してしまう。

日露両国の一行がたどり着いた獅子浜海岸(旧沼津御用邸の約 2 キロ南方)で、江川太郎左衛門とプチャーチンが会談す。戸田村でのロシア人 400 人の収容と、帰国用の船の建造、全長 25m、幅 7m、2 本マストの 60 人乗りスクーター型帆船を建造。

交渉については、日本側の主張。北方四島の先の得撫島までの五島、樺太については北緯 50 度の線引き。ロシアの主張は北方四島と亜庭湾まで。

12/9、米国の汽走軍艦ポーハタンが下田に来航す。

12/21、日露通好条約・9 条が結ばれる。(この日、西暦では 2 月 7 日・北方領土の日)

第二条、今より後、日本国とロシア国との境は、択捉島と得撫島との間にあるべし、択捉島全島は日本に属し、得撫全島、それより北のクリル諸島はロシアに属す。

樺太島に至りては、日本国とロシア国との間において、界を分かたず。是までの仕来りの通りたるべし。

こうして、択捉、国後、色丹、歯舞諸島の北方領土四島が、日本の領土となった。

この条約は、アメリカのアダムズ中佐に託され、ロシア本国へ。

・安政 2 年 (1855) 2/10、アメリカの商船カロライン・フート、浦賀に来航す。備船し 160 名を乗せ、カムチャッカへ。

3/22、戸田にて日本で初めて建造された西洋式帆船ヘダで、プチャーチン提督が日本への感謝の書を残して帰国す。

その後の残留ロシア人達は、下田が開国されて、来航するようになったアメリカやフロシヤの船を備船して、帰国して行ったが、しかし、イギリス海軍は、津軽海峡の先の日本海上に哨戒線を設けており、臨検の結果、フロシヤ船籍の船の船底に、大勢のロシア海軍の将校と水兵を発見した。

ロシア海軍将校達を取り調べた結果は、サー・スターリング提督に報告された。捕虜となったロシア人達は、解放された。なぜなら、クリミア戦争で帝政ロシアが敗北し、財政破綻をきたして、アラスカをアメリカに売却せざるを得なくなっていたからである。同時期にニコライ一世も死去していた。

朝日新聞 平成三年十月五日

# 北方4島 日本帰属は皇帝訓令

## 岡山大学教授が 新資料を入手 ソ連有力紙も報道

北方領土をめぐるロシア共和国指導部の動きが伝えられているが、日露間で四島を日本の帰属と決めた下田条約は当時の皇帝ニコライ一世の訓令によることを示す資料を、保田孝一岡山大学教授(ロシア近現代史)がこのほど入手した。

これまで、北方領土問題で日本に対して非妥協的な立場から、四島を日本領としたこの条約は、交渉に当たったプチャーチンの判断の誤りだとしてきたが、皇帝からの直接指示とわかったことで、歴史家の関心を呼ぶだけでなく、返還交渉にも大きな影響を与えるものと見られる。

保田教授はロシアのド(サンクトペテルブルク)の海軍資料館で、約七百ページの「皇帝陛下の日本皇帝への図書」を入手。日付、場所は明示されていないものの、前後の資料から日本へ向かったプチャーチン提督が小笠原諸島の父島で受け取ったと見られる補足訓令があった。

【モスクワ4日】共同

イワノフ・ソ連外務省太平洋・東南アジア局長は四日、共同通信に対し、ソ連が北方領土問題での立場を変更し、四島が歴史的には日本の固有領土であったことを認めると述べた。

【モスクワ4日】時事

四日付のソ連有力紙イスベスチヤ(夕刊)は、帝政ロシアのツァー(皇帝)ニコライ一世が一八五三年に北方四島の日本帰属を認めたと古文書が発見されたと報じた。ソ連でこの種の古文書が公表されたのは初めて。

新発見の古文書は①ニコライ一世がプチャーチン提督にあてた対日交渉の訓令 ②同提督の手記 ③同提督の日本側への手紙——の三部で、いずれもソ連外務省古文書館で見つかった。

